

その6 楠葉

(平成5年5月1日号—第163号)

京阪樟葉駅から京街道を北へ歩くと、町楠葉のあたりで、白壁づくりの蔵や楠の木陰の残る、旧家のたたずまいを見ることができます。

光明院あたりから東へ歩くと、閑静な住宅街が見えてきます。そこは北楠葉町で、八幡市との境にあります。昭和49～50年に行われた楠葉東遺跡^{*1}の発掘調査で、ここから大昔の土器や瓦が大量に出土しました。

平安時代の歌謡集『梁塵秘抄』[りょうじんひしょう]の中には、「くずはの御牧[みまき]の土器づくり…」というくだりがあり、楠葉が朝廷の牧場であると同時に土器製造地であったことをしのぶことができます。また、飛鳥時代に聖徳太子が創建したといわれる四天王寺には、楠葉でつくられた瓦が使用されていたことも判明しました。しかし、今ではその名残もなく、土器や瓦が出土したことを記念した説明板が、北楠葉公園と公園北側の住宅街にひっそりと立っただけです。



8 楠葉平野山瓦窯跡出土の四天王寺創建時素弁八葉蓮華文軒丸瓦(飛鳥時代)



9 くずはモール

四天王寺が創建(593年)されて今年(1993年)でちょうど1400年になります。この節目の年に、四天王寺で使用された楠葉の瓦を、この欄で取り上げることができたのも、何かの因縁かもしれません。

現在、楠葉はローズタウンなどの新興住宅街として知られ、駅前のモール街^{*2}は、きょうも買い物客であふれています。

^{*1} 瓦窯跡は枚方・八幡両市にまたがっており、八幡市域の遺構も含めて楠葉平野山瓦窯跡群と呼ぶ。

^{*2} 昭和47年にオープンした「くずはモール街」は、平成17年4月に「くずはモール」として新たにオープンした。

